

諏訪・岡谷地方の経済概況速報

平成18年6月

(平成18年5月末調査)

平成18年6月12日

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

**諏訪信用金庫
経営相談室**

電話 0266(23)4567(代)

FAX 0266(23)8044

		実 数	前年同期比
有効求人倍率 【4月】	諏訪公共職業安定所管内	1.24 倍	0.02 ポイント
	岡谷公共職業安定所管内	1.35 倍	0.16 ポイント
手形交換高【5月】 (諏訪手形交換所扱)	枚 数	15,353 枚	7.4 %
	金 額	19,989 百万円	7.1 %
うち不渡り発生状況	枚 数	4 枚	1 枚
	金 額	3,050 千円	2,025 千円
車庫証明取扱件数【5月】 (諏訪・岡谷家用自動車協会管内)		1,150 件	4.3 %
新設住宅着工件数(18年4月) (諏訪地方事務所管内)		134 件	32 戸

概 況

地域の製造業

大型連休が続き稼働日数は減少したものの、輸送用機械・産業機械関連企業は引き続き高水準の生産を続け、携帯電話や光学機器部品、プリント基板など順調な受注状況の企業がみられる。一部に在庫調整から受注が減少した企業がみられるが、全体として4月に続き安定した生産状況となっている。

自動車関連下請企業の受注は、メーカーの大型連休から受注量は幾分減少しているが安定しており、原材料の値上がりや受注単価引下げなどの課題を抱えながらも高水準の生産が続いている。

省力化、自動化機械、専用機や検査装置など設備関連企業の受注は高水準で海外向けの受注が増えている。工作機械は海外出荷を含め引き続き順調な生産が続いている。

地域製造業は一部に受注が減少した企業もみられ、海外への部品発注や原材料の値上がりなどの課題を抱えながらも、受注動向や雇用状況から全体として景況が引き続き回復していることがうかがえる。

商業

5月は数日の周期で天気が変わり、月間日照時間が平年の80%となるなど曇りや雨の日が多く商業活動に影響がみられた。「母の日セール」は、大型連休から1週間後だったこともあり期待されたが昨年並みとなっている。

衣料品は、上旬の急激な気温上昇や中旬の気温低下など天候の変化が激しく動きは低調だった。

食料品は店舗間競争が激しく、チラシや広告により店舗を移動する消費者もみられ、価格競争から前年を割り込む店舗がみられた。

大型家電店は、大型薄型ＴＶが引き続き堅調な動きをみせ、デジタル家電などに動きが出ており総体では前年を幾分上回る売れ行きだった。

ホームセンターは、新規出店の大型店舗との競争が激しくなっているが、総体としては園芸資材など順調な売れ行きをみせた。

観光

行楽シーズンを迎え、５月の連休は天候に恵まれ、湖畔や高原の観光地は入込み客が多く賑わった。宿泊客は、昨年は愛知博覧会の影響から前年割れであったが、今年は連休中の宿泊客が多く満室のところが多くみられた。

上諏訪の旅館・ホテルは５月の連休前半は宿泊客で満室のところが多く、後半は定員割れとなった。月間では修学旅行客などもあり、総体では前年を５％前後上回った模様。

蓼科・白樺湖・車山方面の宿泊客は、連休中満室のところのみられたが、月間では天候の影響を受け旅館・ホテルにより増加減少区々となっている。

下諏訪温泉の連休中の宿泊客は例年を上回ったところのみられたが、総体では平年並みとなっている。

諏訪大社の参拝者は３２千人で前年を幾分下回った。

建設業

市町村の５月の発注工事は、６５０百万円で前年同月比１９１百万円増加した。地元企業への県発注工事は１８百万円で、前年同月比５６百万円減少した。県・市町村合わせた５月の公共工事の地元企業受注額は、６６８百万円で前年同月比１３５百万円増加した。

民間工事は４月の新設住宅着工件数が１３４戸で前年同月比３２戸減少した。１７年４月～１８年３月の累計着工戸数は２、０２１戸で、前年同期の累計着工戸数に比べ５８戸増加した。建築工事は、工場建設や耐震工事などが幾分増加しており予定の受注量を確保したところのみられるが、土木工事は依然低調となっている。

雇用

４月の有効求人倍率は、諏訪公共職業安定所１．２４倍・岡谷公共職業安定所１．３５倍で、諏訪地域の有効求人倍率は１．２８倍と長野県の１．１７倍を上回っている。諏訪職安と岡谷職安を合わせた４月の新規求人（全数）は１、４９６人で、前月より４７９人減少した。製造業からの新規求人は３８４人で前月より６４人減少し、人材派遣などサービス業は３８０人で前月比４０人増加している。

地域の有効求人倍率は平成１５年１０月以降３１ヶ月連続して１倍を上回っている。

当金庫から見た需資動向に大きな変化はみられない。

業種別動向

1. 電気機器
 - プリント基板 携帯電話、パソコン、デジタル家電などの基板は高水準の生産が続いており全体として受注は幾分増加している。
 - コンデンサー メーカーの稼働日数から受注は幾分減少した。
 - プリンター 下請け企業の受注状況は区々となっており、大型プリンターは順調に推移している。
 - コンダクター・リレー 受注は安定しており堅調な生産が続いている。
2. 輸送用機械
 - 自動車 国内メーカーは安定した生産を続けており、下請け企業の生産は高水準となっている。
二輪車部品の受注は幾分弱含みとなっている。
 - ピストンリング・シリンダーライナー メーカーは順調な生産を続けているが、下請け企業の受注は幾分弱含みとなっている。
 - 船外機 輸出が順調で外注企業の受注は安定している。
3. 一般機械
 - 工作機械 自動車部品やO A部品の加工機械は引続き堅調な生産を続けている。
 - 専用機・省力機器 専用機械、省力化機械など産業機械の受注は安定しており、海外向け製品は高水準の生産を続けている。
 - 搬送用機械 デジタル家電企業や食品企業などの受注によりフル稼働の生産が続いている。
 - 金型 情報機器や音響機器の金型受注は機種により増減区々となっている。高水準のまま横這い状況のところもみられ、総じては増加傾向となっている。
 - アルミダイキャスト 自動車部品や電源機部品など高水準の生産を続けているところがみられる。受注状況は区々で総体としては増加している。
4. カメラ・レンズ
 - デジタルカメラ デジタルカメラの4月の生産台数は607万台で前月比 10.4%の減、前年同月比23.0%の増加となっている。4月の出荷台数は国内出荷81万台、輸出530万台で出荷台数全体では前月比 8.8%の減、前年同月比17.4%の増となっている。(カメラ映像機器工業会) 海外生産が主流となっており、地域の下請け企業の受注状況は区々となっている。高級1眼レフの金属加工の受注が大幅に増加し、地域の下請け企業の生産状況は高水準となっている。
 - プロジェクター メーカー各社の海外生産比率が高まり、下請け企業の受注は減少しており前年同期比では大幅に減少している。

- レ ン ズ ガラスレンズの生産は海外が主体となっている。下請け企業の中には受注が幾分増加した企業がみられるが、国内のガラスレンズの生産量は減少しており総体では減少傾向となっている。
- 5 . 織 維
ニ ッ ト 気温の変化が激しく専門店の売れ行きは幾分低調となっており、地域のニットメーカーへの発注は幾分減少しているが、クールビズ関連の受注に動きがみられる。
- 6 . 食 品
寒 天 年間需要をみながら安定した出荷を続けている。
- 味 噌 需要が幾分減少しており出荷は横ばいとなっている。
- 7 . 製 材
 諏訪地域の4月の木造住宅着工件数は124戸で前月比 53戸減少した。木材の動きが依然として鈍い中、原油高騰による輸送コスト高の影響などから10%程度価格が値上がりしている。
- 8 . 建 設
公 共 工 事 5月に地元業者が受注した県関係公共工事は、発注機関別では、林道治山工事関係4件・契約金額18百万円で、前年5月比 56百万円の減となった。18年4月～18年5月の累計契約額は23百万円で前年同期累計比 365百万円の減少となっている。
- 市町村発注工事は、建築工事19件204百万円、土木工事・下水道工事など71件392百万円、その他工事15件54百万円で合計105件650百万円と前年5月に比べ191百万円増加した。
- 民 間 工 事 4月の新設住宅着工件数は134戸で、前年4月比 32戸減少した。建築工事は工場建設や耐震工事などに動きが見られるが、土木工事は低調に推移している。

9. 商業

諏訪地方の春の天候は平年に比べ、4月は低温で5月は高温と温度差が大きく、天候が数日で変わるなど商業活動に影響がみられた。

園芸資材や家電製品など前年を上回る売れ行きの商品がみられたが、「母の日セール」は前年並みの売りに留まり、衣料品は天候の影響を受けた。食料品は競争が激しく売上げが伸びず、小売業総体では幾分低調であった。

衣 料 上旬は気温が急激に上昇し中旬は気温が低下するなど寒暖の差が大きく、衣料品の売れ行きは低調だった。

食 料 品 店舗間競争が続くチラシ、広告により消費者が店舗を移動して購入するなどの動きが続いている。消費に大きな変化はみられないものの、価格競争から売上げが前年を割り込む店舗がみられる。

電 気 機 器 薄型大型TVは堅調な売れ行きをみせ、デジタル家電に動きがでており総体では前年を上回った模様。

自 動 車 諏訪・岡谷を合わせた5月の車庫証明件数(軽自動車除く)は1,150台で、前月比37台増加しているが、前年同月比51台(4.2%)減少した。

軽自動車は引き続き好調な売れ行きをみせているが、ガソリンの値上りなどの影響もあり普通乗用車の売れ行きは低調となっている。

ホームセンター ホームセンターの新規開店があり競争が激化している中、園芸資材など季節商品は順調な売れ行きをみせている。

デパート 食料品、紳士服など順調な売れ行きをみせ総体の売上げは前年より大幅に増加しているが、天候の影響もあり婦人衣料品など中旬以降やや動きが低調となった。

10. 観光

行楽シーズンを迎え、大型連休は天候に恵まれて湖畔や高原の観光地は入込み客が多く賑わった。

宿泊客が昨年は愛知博覧会の影響から減少したが、今年の連休中は宿泊客が多く満室のところのみられた。

上 諏 訪 温 泉 宿泊客は旅館・ホテルにより増加減少区々となっているが、5月の連休前半は満室のところが多く、連休後半は定員割れのところもみられた。月間では修学旅行などの受け入れもあり、総体では前年を5%程度上回った模様。

蓼科・白樺湖・車山 5月の連休中は満室のところのみられたが、月間では天候の影響を受け、旅館・ホテルにより増減区々となっている。前年比では総体では幾分減少した模様。

下 諏 訪 温 泉 宿泊客は増加、減少区々となっており総体では前月比増加しているが前年同期並みとなっている。

諏 訪 大 社 参拝客は32千人で前年を幾分下回った。

トピックス

最近の長野県経済の動向

(2006年6月6日)日本銀行松本支店

2006年4月の主要経済統計および企業ヒアリングを中心に取りまとめ。

長野県経済は、緩やかで着実な回復が続いている。

足もとの最終需要の動向をみると、設備投資は、増加基調をたどっているほか、輸出も、引き続き回復している。また、住宅投資は、市部を中心に増加基調にある。個人消費は、乗用車販売および衣料品が弱めの動きとなっているが、食料品や家電製品を中心に基調としては底堅い動きが続いている。一方、公共投資は、前年の大型工事の反動から、前年を下回った。

以上のような最終需要のもとで、生産は、産業機械向けおよび自動車向けが高水準の生産を継続しているほか、IT関連財の生産も着実に回復している。また、雇用面をみると、企業活動の活発化を映じて新規求人数が引き続き増加し、新規求職者数も減少したことから、有効求人倍率は前月比上昇した。一方、所得面は、一人当たり名目賃金が所定内給とおよび所定外給与の増加を受けて引き続き前年比プラスとなるなど、着実に改善している。

個別業界の動向

(生産)

半導体関連では、半導体素子が、デジタル家電向けを中心に、シリコンウエハ、自動車関連・デジタル家電向けを中心に、高水準の生産を続けている。この間、リードフレームは、生産水準を引き下げた。

電子部品では、コンデンサが、デジタル家電向けを中心に、抵抗器、デジタル家電、携帯電話向けを中心に、高水準の生産を維持している。また、モーターの生産は、横ばいで推移している。

情報機器では、県内生産分のパソコン(ノートブック型)が販売堅調を受けて、また、プリンターは複合機タイプの販売堅調を背景に、高目の生産水準を維持している。一方、デジタルカメラは、海外生産の強化および販売の伸び悩みを受けて、生産は低調に推移している。

時計では、完成品が、海外生産シフトの影響から、また、ムーブメントも、海外向けの伸び悩みや価格競争の激化を受けて、基調としては低調な生産を続けている。

自動車部品は、国内向けが乗用車販売台数の減少を受けてやや鈍化しているものの、引き続き海外向けが増加基調にあることから、全体として高水準の生産が続いている。

工作機械は、国内外の自動車向けや情報関連機器向けを中心に、高水準の生産を継続している。

計器は、国内の産業機械向けや半導体関連向けが伸び悩んできたほか、国内外の自動車向けが引き続き減少していることから、生産水準は低下している。

バルブは、ウェイトの高い国内外の産業機械向けおよび国内の住宅向けが好調を継続していることから、高水準の生産が続いている。

味噌の出荷は、横ばい圏内で推移している。

飲料は、緑茶飲料の需要が高水準で推移しているほか、コーヒー、ブレンド茶飲料の新商品の受注が好調なことから、総じて堅調な生産が続いている。

(個人消費)

県内大型小売店(百貨店、スーパー)売上高(当店調べ<店舗調整前>)をみると、衣料品は、4月中の気温低下等を背景に春物衣料の売れ行きが鈍かったことから、引き続き前年割れとなった。一方、身の回り品は、ブランド・テナント出店効果等により婦人向け商品や時計・宝飾品が好調に推移したことから、食料品も新規出店効果等から、それぞれ前年比増加したため、全体では再び前年を上回った。

家電販売は、デジタル家電や白物家電が好調を継続しているほか、パソコンの売れ行きも安定しており、全体では堅調な販売が続いている。

自動車販売をみると、軽四輪が新型車投入効果等により増加した一方、ガソリン価格が高値で推移する中で、小型車および普通車が引き続き減少したことから、全体では再び前年割れとなった。